事例No.	1256
公表年度	R2
団体の属性	一般市
団体名	長野県塩尻市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・副業・兼業活用 ・地域運営組織

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「プロフェッショナル人材とシビックイノベーターの協働によるオンラインサロンと副業を活用した地域課題解決モデル」事業

出典

令和２年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業調査報告書

(12) 長野県塩尻市

事業名：「プロフェッショナル人材とシビックイノベーターの協働によるオンラインサロンと副業を活用した地域課題解決モデル」事業

取組の概要

シビックイノベーター(事業課題やアイデアを持ち寄り、自ら未来をつくろうとする人)と外部人材とが協働して地域課題を顕在化した「仕様書」を作成し、地域外のプロ人材が副業として取り組む仕組みを構築。また、塩尻市の地域課題解決に関わりたい方へ向けて有料のオンライン・コミュニティ「塩尻 CxO Lab」を開設。

主な成果

有料オンラインサロンとして開設した「塩尻 CxO Lab」に 27 名が参加した。72 名の応募者を面接し、10 名が副業として地域課題（５テーマ）に取り組んだ。「塩尻 CxO Lab」のプロ人材も参画した鳥取県内でのモデル展開により、関係人口の地域間シェアの可能性が示された。

①事業の背景・目標

1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

・少子高齢化や人口減少、社会構造の変化に伴い、森林整備や農業の担い手不足、産業の後継者不足、高齢者介護、空き家の増加、保険医療費の増加等、課題が複雑化、多様化している。加えて、それぞれの地域課題に対して行政だけでは対応できない時代を迎えており、民間活力の導入により事業のスマート化及び地域活性化を目指す。

・また、過去の取組によって生まれた交流人口を関係人口に深化させる取組ができておらず、関係性が深まっていなかった。

2) 概ね５年後の地域の理想の姿

・関係人口モデルが構築され、プロ人材プラットフォームからの関係人口により、地域課題が解決されている。

・地域内に在住するか否かに限らず、地域課題を自ら解決する担い手が地域内外に生まれている。

3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

・MICHIKARA 地方創生協働リーダーシッププログラム（５年間で 109 名の首都圏人材が来訪）／地域ブランドプロモーション／信州大学との共同研究／塩尻市シティプロモーションアドバイザー／TURE - TECH／SPIRIT／旅するスクール／社会人スタディツアー／塩尻野菜スーププロジェクト／リビングラボ／346 アカデミー／ワーケーションネットワーク構想／iX ハイクラス副業／複活／グロービス地域活性化クラブ／山田崇による首都圏での講演

4) 今年度事業の目標

目標	地域課題解決に向け、地域住民・ステークホルダーを巻き込んだ取組の実施により、事業終了後も関係人口と地域に継続した関係がある。
成果指標	①オンラインサロン参加者（会費自費）　②副業実施者
目標値 （基準値）	①オンラインサロン参加者　15 名 ②副業実施者　３名　（基準値：２名（2020 年））

②事業実施体制

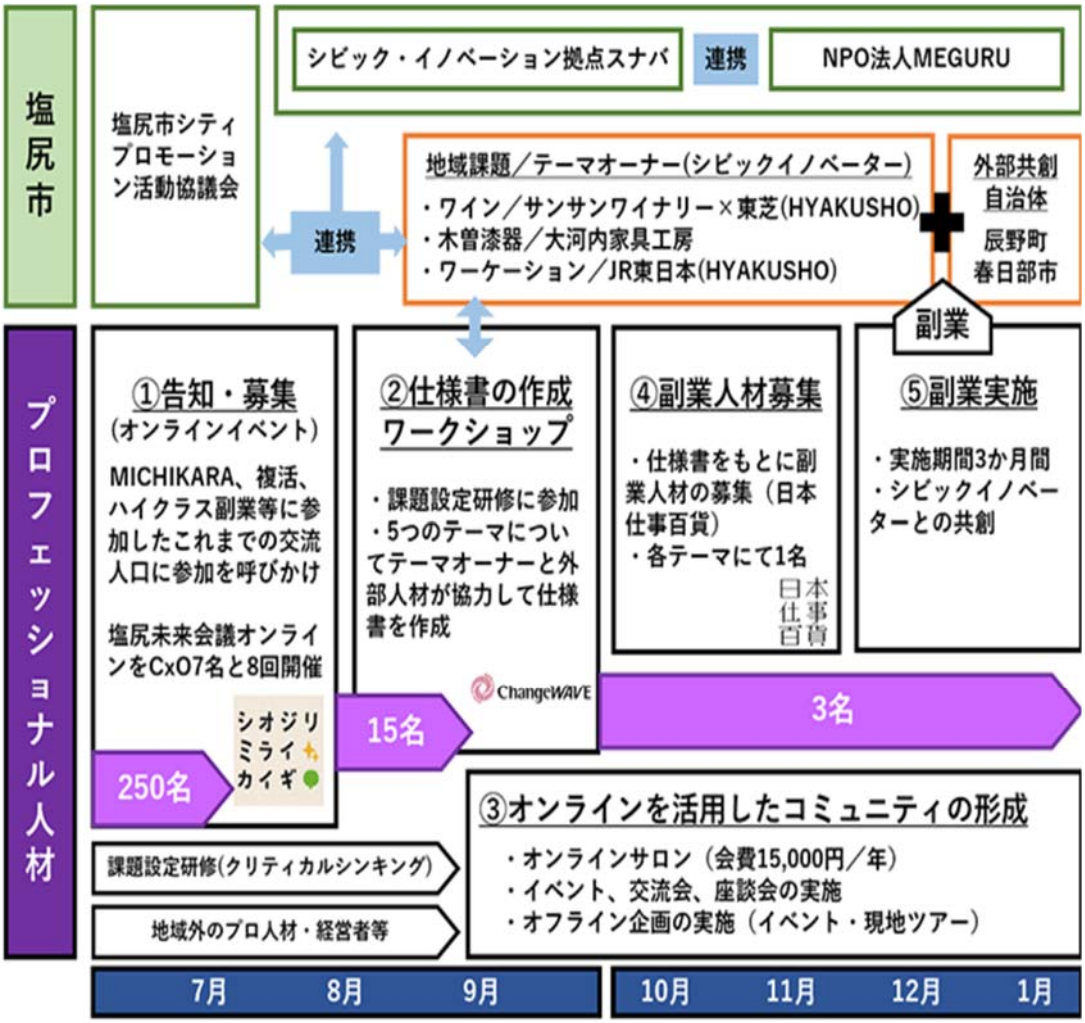
区分	団体・組織名称	役割
地元関連団体	塩尻市シティプロモーション活動協議会	事業の企画、運営、イベントの主催
行政	塩尻市役所企画政策部地方創生推進課	事業の企画、運営、市内関係団体・協力団体の取りまとめ
地元関連団体	シビック・イノベーション拠点「スナバ」	地域課題を顕在化する研修の自走を目指し、研修プログラムと関係人口（プロ人材）プラットフォームを構築
中間支援団体	NPO 法人 MEGURU	企画コーディネート・プロ人材の副業募集から実施までの伴走支援、事業実施への伴走支援、成果のとりまとめと言語化

③ターゲット設定とアプローチ方法

ターゲット層	アプローチ（情報発信）方法	期待する役割・関わり方
市外に在住するスナバ・CxO Lab メンバー	・ 個別声かけ	・ それぞれのスキル・ノウハウを活かしたプロジェクトへの参画地域住民への取組の共有、交流
過去の官民連携 PJT 等で一度関係を持ったプロ人材	・ MICHIKARA メンバーへ個別呼びかけ ・ 複活・ハイクラス副業応募者への連絡	・ 仕様書作成プロジェクトへの参加 ・ オンライン・コミュニティ（塩尻 CxO Lab）への参加 ・ 副業応募
地方副業に関心のある首都圏を中心とした企業社員	・ 塩尻未来会議の開催 ・ 個人の SNS での情報発信・シェア	・ 仕様書作成プロジェクトへの参加 ・ オンライン・コミュニティ（塩尻 CxO Lab）への参加 ・ 副業応募

④事業スケジュール

時期	～7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
企画・準備等	プロジェクト準備						
取組① 地域課題顕在化研修	オンラインイベント クリティカルシンキング研修 仕様書作成WS		仕様書作成	仕様書最終プレゼン			
取組② 副業募集・実施				副業募集	選考	副業実施	
取組③ 塩尻CxO Lab	コミュニティ準備期間	塩尻未来会議・オンラインラジオ：常にプロジェクトの進捗や情報共有 2週間に一度オンライン座談会を開催					
取組④ とっとりMEGURUラボ						自治体募集イベント 仕様書作成研修 仕様書作成 仕様書発表イベント	
成果報告等							成果報告会実施



⑤取組の内容

【取組1　地域課題顕在化研修】

目的と概要

・シビックイノベーター（テーマオーナー）と外部人材が協働して地域課題を顕在化するための「仕様書」を作成。外部人材と協働するために、地域課題を言語化し、可視化を行った。また、仕様書の作成過程にも外部人材が関わることで、関係人口となり得るかを実証した。

開催日時・内容

＜第１回＞　７月 17 日

・クリティカルシンキング研修に 135 名参加（Peatix・SNS 等で集客）

＜第２回＞　８月９日

・仕様書作成研修に 25 名参加（Peatix・SNS 等で集客）

・５チームごとに、テーマオーナー、世話人、外部人材の３者で仕様書作成について MTG（1.5ｈを３～４回程度）

＜第３回＞　９月９・10 日

・佐々木裕子氏（「地方創生協働リーダーシッププログラム MICHIKARA」発起人）による仕様書壁打ち　→　佐々木氏の FB をもとに最終仕様書を修正

＜第４回＞　９月 25 日

・最終仕様書プレゼン（テーマオーナー＆外部人材交流会）

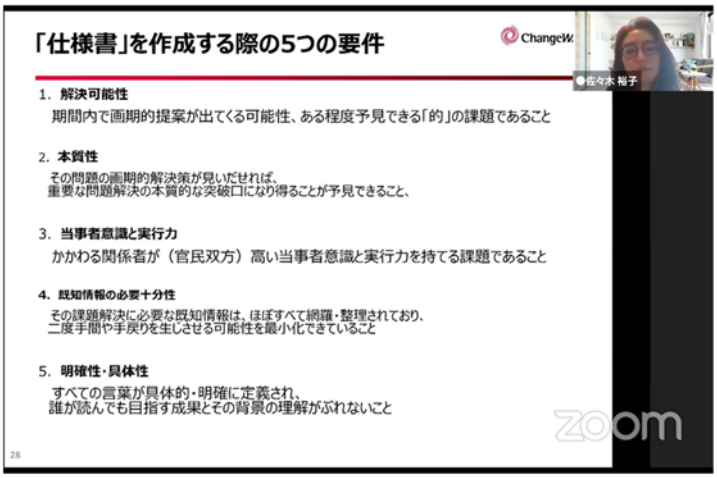
成果等

・地域課題解決に関心のある市内シビックイノベーターや市外の関係人口候補者を 135 名集客することができた。

・仕様書を作る段階にも外部人材に参画いただくことで、副業を経ずとも「関係人口」になり得る可能性が示された。

・仕様書があることで、地域が抱える課題と未来と本気度が伝わり、外部人材を巻き込む有効な手立てとなることが示された。

・テーマオーナー、世話人、外部人材によって構成するチームが形成されることで、有効な仕様書が作成可能となる。





【取組2 副業募集・実施】

目的と概要

・取組１で作成した仕様書をもとに、実際に設定した課題解決を実行するため、日本仕事百貨を活用して５テーマの副業人材を募集。各テーマについて全員と 15 分の面談を実施し選考を行った。結果、全体で 10 名の副業人材が着任し、11 月～１月に副業で課題解決に取り組んでいる。

日時・関係者・プロジェクト等

・９月８日：求人取材、10 月１日：求人公開（２週間）、11 月～副業人材着任
・参加者：応募者（72 名）、面接（72 名）、副業実施（10 名）
・副業による地域課題解決プロジェクト（塩尻 MEGURU プロジェクト）
  ■ WaiNari を活用した地域資源の可視化による販路拡大プロジェクト（テーマオーナー：㈱HYAKUSHO、㈱東芝、副業人材：２名）
    ➢ ワインのおいしさを視覚化・言語化するシステムを活かし、塩尻市のワイン生産者と、ワインに興味を持つ若手消費者が繋がるコミュニティをデザイン
  ■ 伝統工芸の作り手の存続に向けた「仕事を自分事化できる」職人人財の育成（テーマオーナー：㈱大河内家具工房、副業人材：２名）
    ➢ 家具工房の現場業務体制の変革に資する多能工人財の要件定義と、人材育成プログラムを開発・実践
  ■ あずさ沿線のテレワーク施設をハブとした関係人口創出プロジェクト（テーマオーナー：JR 東日本長野支社、副業人材：２名）
    ➢ 沿線地域のコミュニティハブである既存施設と連携し、JR 独自のレイルウェイネットワークを活かして関係人口と移動需要を創出
  ■ 「お困りごと trip」の推進による未来の里山共創プロジェクト（テーマオーナー：㈱TUG BOAT、副業人材：２名）
    ➢ 「自己実現×課題解決」お困りごと trip による、持続可能な里山づくりの担い手を発掘（長野県辰野町との連携）
  ■ “まちを好きになる”から始まる、まちのプロモーションプロジェクト（テーマオーナー：春日部市シティセールス広報課、副業人材：２名）
    ➢ 「まちへの愛着醸成」につながる、「人」を起点とする地域の魅力の創出に係る事業を展開（埼玉県春日部市との連携）

成果等

・長野県や塩尻市に地縁が全くなくとも、ワインや漆器、ワーケーションなどそれぞれの関心に従い、副業であるからこそチャレンジできるといって応募した方が多数存在した。
・仕様書を基に、地域課題が顕在化された状態で求人告知募集を行ったことで非常にエンゲージメントや意欲の高い応募者がいることが確認された。応募者からは「読んでいてワクワクした」、「まさに自分がやりたい PJT だった」といったコメントもあり、外部人材を巻き込むという視点で仕様書作成の有効性が示された。
・仕様書作成に関わった外部人材も５名が応募し、実際のプロジェクト実行フェーズまで関わりたいと思う方が生まれた。
・仕様書作成段階から関わった外部人材は、副業だけではなくプロボノとして継続的にチームに関わり、関係人口の新たな形が示された。

【取組3　塩尻 CxO Lab】

目的と概要

・塩尻市の関係人口プロジェクトのプロモーションと母集団獲得のため、塩尻未来会議オンラインを全９回実施し、塩尻の地域課題解決に関心のある外部人材を集客。その後、より主体的に関わりたい方に向けて有料のオンライン・コミュニティ塩尻 CxO Lab を開設した。

・常に塩尻の情報をアップデートするとともに座談会により関係性を構築することで、参加者の任意のタイミングで、副業応募、プロジェクト創出、各種メディア露出などの機会創出につなげた。

日時・参加者等

・塩尻未来会議オンライン（６月～８月／全９回）、オンラインラジオ（毎週金曜日／27 回）、座談会（隔週水曜日／17 回）

・塩尻未来会議オンライン参加者：250 名、有料サロンメンバー：27 人

成果等:

・数多くの参加者により、今後の関係人口事業のもととなる DB を構築した。

・地域課題解決とそのコミュニティ参画に、「有料でも関わりたい人」がいることが確認された。

・オンライン・コミュニティから、複業参画、プロジェクト創出、広報 PR など 20 を超えるプロジェクトが生まれた。

・NHK、全国の地方紙、Work story award の受賞など 10 以上の外部メディアや賞に取り上げられた。

【取組4　とっとり MEGURU ラボ】

目的と概要

・今期塩尻市で実施した事業が他自治体においても展開可能なモデルであるか検討するため、鳥取県庁関係人口推進室、鳥取県内の NPO、地銀と連携し、「とっとり MEGURU ラボ」を開設。県内３自治体（大山町、智頭町、境港市）の仕様書作成による地域課題顕在化事業を行った。

日時・参加者等

・12 月 10 日：説明会&仕様書作成研修（32 人）→参画自治体の募集、12 月 22 日：３自治体のプロジェクト概要発表、外部人材とのチーム組成（テーマオーナー・世話人・外部人材で仕様書の壁打ち［1.5ｈを２～３回程度］）、１月 13 日：仕様書の中間プレゼン、１月 23 日：仕様書の発表会（約 90 名）

成果等

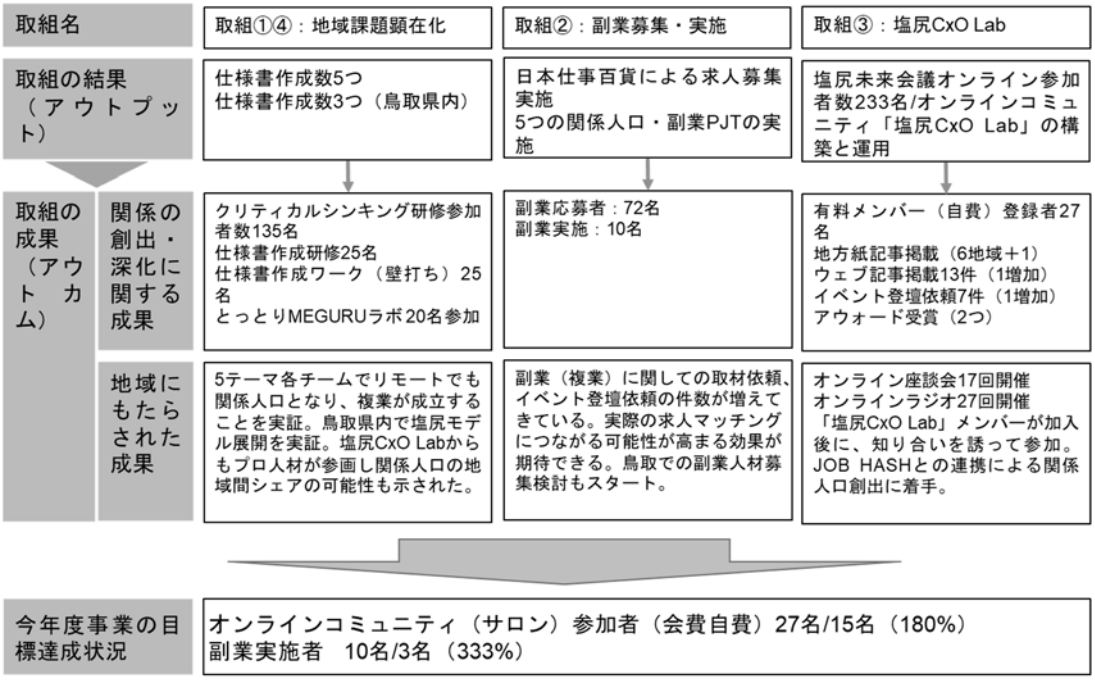
・仕様書発表会には、商工会議所副会頭なども参加し、地域側の注目度の高さも感じた。「テーマオーナーの熱さに感銘を受けた」、「スタートアップのようなプレゼンだった」、「自分も仲間に加わりたいと感じた」などの声があり、今後の関係性発展につながるような事業となった。

・鳥取県内の他自治体、商工会議所役員も参加し本事業の他地域展開へのきっかけを作ることができた。

・「とっとり MEGURU ラボ」へ参加した外部人材も鳥取県への愛着を感じており、関係人口へ深化するきっかけを作ることができた。また、塩尻の MEGURU プロジェクトに関わった人材が鳥取にも参画するなど、地域間のタレントシェアリングの可能性も示された。

⑥事業成果

1) 取組ごとの成果発現プロセス



2) 本事業全体を通じた成果

【関係人口事業を推進する上での「仕様書作成」の可能性】

・仕様書があることで、地域が抱える課題と未来と本気度が伝わり、外部人材を巻き込む有効な手立てとなることが示された。結果 72 名の応募を獲得。地域側で「何をしたいのか、なぜやりたいのか、これまで何がたりなかったのか」を明確化することが非常に重要であることを実感した。

・仕様書を「①テーマオーナー、②世話人、③外部人材」のチームで作成することで、チーム内での関係性の構築と、当事者意識の醸成が促進され、副業実施を経ずとも「関係人口」になり得る可能性が示された。

【オンライン×副業による関係人口創出】

・仕様書をもとに地域課題が顕在化された状態で求人募集告知を行ったことで、非常にエンゲージメントや意欲の高い応募者が確認された。

・仕様書作成に関わった外部人材からも５名が副業に応募しており、仕様書作成だけではなく、実際のプロジェクト実行フェーズまで関わりたいと思ってもらえる方が生まれた。また、仕様書作成段階から関わった外部人材は、副業だけではなくプロボノとして継続的にチームに関わっており、関係人口の新たな形が示された。

【他自治体展開の可能性】

・塩尻 MEGURU プロジェクトには、辰野町・春日部市が参加し、それぞれ複業人材の参画により短期間でも一定の効果が得られていることから、本モデルが塩尻地域に限らないモデルであることを実証した

・また、事業運営自体についても鳥取県と連携して展開することで、行政が民間や NPO と連携して関係人口創出に取り組むことの重要性を再認識するとともに、とっとり MEGURU ラボの成果から同様に他自治体展開可能なモデルであることを示した。

⑦事業を通じた課題・気づき等

1) 事業の目標設定と達成に関する課題・気づき

・本事業により、以下の仮説が実証された。

【仮説①】仕様書作成に外部人材が関わることで、地域への当事者意識が生まれ、関係人口となりうる

【仮説②】副業人材の募集過程においても、「仕様書」の存在が有益である

【仮説③】地域外のプロ人材の副業による地域課題解決が推進されるとともに、本人の関係人口化に寄与する

【仮説④】本事業モデルが他自治体においても同様に展開可能である

2) 事業の実施体制に関する課題・気づき

・市役所だけではなく、NPO や民間事業者などとの有機的なつながり、連携体制が必要である。また、仕様書作成においては「テーマオーナー、世話人、外部人材」の３者がそろっていることが必要である。

・他自治体との協働や、他自治体への事業モデル自体の展開を行うことで、他地域と連携して関係人口を創出することができる可能性も示された。

3) ターゲット設定や募集・情報発信等に関する課題・気づき

・日本仕事百貨での副業人材募集においては、日本仕事百貨ユーザー層と「副業」の相性が良く、71 名の応募を得た。

4) 各取組の実施・運営に関する課題・気づき

・事前にオンライン企画を 10 日間連続実施したことで、体調管理やメンバー同志・地域側のステークホルダーとの関係性構築などができ、現地でのフィールドワークをスムーズに実施できた。

⑧今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

1) 本事業の成果の今後の活用・発展方向について

・「今回のプロジェクトではないがぜひ今後も関わってほしい」と思う人材(22 名存在）との関係性の継続のために、中長期的に人材をプールしておける「タレントプール」のような機能の必要性を感じている。また、持続可能なモデルとして NPO 法人 MEGURU を中心に他自治体への展開も行う。

2) 地域における関係人口への期待について

・地域の担い手不足解消に対して、副業やリモートの活用による地域活動への参画は非常に有益である。今後は、参加者との関係の継続や、いかに地域課題を自ら解決する「担い手」として巻き込んでいけるかが課題である。

3) 今後の関係人口創出・拡大に向けた政策等について

・中長期的に人材をプールする機能（塩尻 CxO Lab）や、コーディネート人材の採用等に取り組む見込みである。この仕組みを定着させることにより、地域外のプロ人材の創出と地域課題の顕在化を進める。さらに、課題解決にビジネスの手法を取り入れ、地域密着型コミュニティビジネスを生む。

4) 地域における持続的な受入の体制・仕組みについて

・今後は、塩尻市の地域おこし協力隊が設立した NPO 法人 MEGURU が関係人口事業の運営を担う。商工会議所と連携した地域の中小企業への展開の促進、地域の金融機関とも連携した人材活用協議会の設立など、より地域内での副業人材活用や関係人口創出の機運を醸成していく。